

温泉分析書

1. 申請者 住所 : 福岡県久留米市合川90番地
氏名 : 最所産業株式会社 代表取締役 最所 美博
2. 源泉名および湧出地
源泉名 : 佐賀鍋島温泉
湧出地 : 佐賀県佐賀市神園6丁目1139番2
3. 湧出地における調査および試験成績
(イ)調査及び試験者 : 株式会社 太平環境科学センター 河野 雄彦
(ロ)調査及び試験年月日 : 2020年3月26日
(ハ)泉 温 : 45.2℃ (気温 : 15.5℃)
(ニ)湧 出 量 : 640L/min 動力揚湯
(ホ)知覚的試験 : 淡黄色・透明・無味・微硫化水素臭
(ヘ)pH値(測定時水温) : 8.6 (45.2℃)
(ト)ラドン (Rn) : 2.5×10^{-10} Ci/kg (0.69 マッヘ[M・E])
4. 試験室における試験成績
(イ)試験者 : 株式会社 太平環境科学センター 田村 和敏
(ロ)分析終了年月日 : 2020年4月3日
(ハ)知覚的試験 : 淡黄色・透明・無味・微硫化水素臭 (採水後24時間)
(ニ)密 度 : 0.9992 g/cm³ (20℃/4℃)
(ホ)pH値(測定時水温) : 8.6 (20.0℃)
(ヘ)蒸発残留物 : 1400 mg/kg (110℃において)

5. 試料1キログラム中に含有する成分、分量及び組成

(イ) 陽イオン成分	ミリグラム mg	ミリバール mval	ミリバール% mval%	(ロ) 陰イオン成分	ミリグラム mg	ミリバール mval	ミリバール% mval%
ナトリウムイオン (Na ⁺)	370	16.09	97.10	フッ化物イオン (F ⁻)	14	0.74	4.24
カリウムイオン (K ⁺)	7.2	0.18	1.11	塩化物イオン (Cl ⁻)	130	3.67	21.11
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	0.8	0.07	0.40	炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	780	12.79	73.60
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	4.5	0.22	1.35	炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	5	0.17	0.96
リチウムイオン (Li ⁺)	0.04	0.01	0.03	硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	0.8	0.02	0.10
陽イオン 計	382.5	16.57	100.00	陰イオン 計	929.8	17.37	100.00

(ハ) 遊離成分

非解離成分	ミリグラム mg	ミリモル mmol
メタケイ酸 (H ₂ SiO ₃)	43	0.55
メタホウ酸 (HBO ₂)	31	0.71
メタ亜ヒ酸 (HAsO ₂)	0.1未満	0.00
非解離成分 計	74.0	1.26

溶存物質 (ガス性のものを除く) : 1.386g/kg

溶存ガス成分	ミリグラム mg	ミリモル mmol
遊離二酸化炭素 (CO ₂) (遊離炭酸)	2未満	0.00
遊離硫化水素 (H ₂ S)	0.1未満	0.00
溶存ガス成分 計	0.0	0.00

成分総計 : 1.386g/kg

(ニ) その他の微量成分

ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	0.03 mg/kg
バリウムイオン (Ba ²⁺)	0.02 mg/kg
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.03 mg/kg
マンガンイオン (Mn ²⁺)	0.01 mg/kg
鉄 (II) イオン (Fe ²⁺)	不検出 (0.05mg/kg未満)
鉄 (III) イオン (Fe ³⁺)	0.07 mg/kg
銅イオン (Cu ²⁺)	不検出 (0.01mg/kg未満)
亜鉛イオン (Zn ²⁺)	0.06 mg/kg
総水銀 (T-Hg)	不検出 (0.0005mg/kg未満)
鉛イオン (Pb ²⁺)	不検出 (0.005mg/kg未満)

臭化物イオン (Br ⁻)	0.3 mg/kg
ヨウ化物イオン (I ⁻)	不検出 (0.2mg/kg未満)
チオ硫酸イオン (S ₂ O ₃ ²⁻)	不検出 (0.1mg/kg未満)
硫化水素イオン (HS ⁻)	不検出 (0.1mg/kg未満)
総ヒ素 (T-As)	0.003 mg/kg
カドミウム (Cd)	不検出 (0.001mg/kg未満)
-	-
-	-
-	-
-	-

6. 泉質 : ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉 (低張性アルカリ性高温泉)

2020年4月6日

福岡市博多区金の隈2丁目2番31号
株式会社 太平環境科学センター (福岡県登録第5号)

代表取締役 坂本 雅俊



温泉分析書別表 (1)

- 1 源泉名：佐賀鍋島温泉
 2 源泉所在地：佐賀県佐賀市神園6丁目1139番2
 3 温泉分析申請者：福岡県久留米市合川90番地
 最所産業株式会社 代表取締役 最所 美博
 4 泉質：ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉（低張性アルカリ性高温泉）
 5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。

(1) 浴用の禁忌症

一般的禁忌症 病気の活動期（特に熱のあるとき）、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

泉質別禁忌症 特になし

(2) 浴用の適応症

一般的適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進

泉質別適応症 きりきず、抹消循環障害、冷え性、皮膚乾燥症、うつ状態

(3) 飲用の禁忌症

特になし

(4) 飲用の適応症

胃十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、耐糖能異常（糖尿病）、高尿酸血症（痛風）、萎縮性胃炎、便秘

(5) 浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア 入浴前の注意

(7) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

(4) 過度の疲労時には身体を休めること。

(9) 運動後30分程度の間は身体を休めること。

(5) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。

(6) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。

(8) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ 入浴方法

(7) 入浴温度：高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

(4) 入浴形態：心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(9) 入浴回数：入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

(5) 入浴時間：入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ 入浴中の注意

(7) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(4) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(9) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けをもとめつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ 入浴後の注意

(7) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質（例えば酸性泉や硫黄泉等）や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。）。

(4) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ 湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日～1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

温泉分析書別表 (2)

(6) 飲用の方法及び注意

温泉は、湧出後、時間の経過とともに変化がみられるため、地中から湧出した直後の新鮮な温泉が最も効果があるといわれているが、それぞれの泉質に適する用い方をしなければ、かえって身体に不利に作用する場合もあるので、温泉の飲用は、以下の事項を守って行う必要がある。なお、温泉を飲用に供する場合は、当該施設の設置者等は新鮮な温泉を用いるとともに、源泉及び飲泉施設について十分な公衆衛生上の配慮を行う必要がある。

- ア 飲泉療養に際しては、専門的知識を有する医師の指導をうけること。また、服薬治療中の人は、主治医の意見を聴くこと。
- イ 15歳以下の人については、原則的には飲用を避けること。ただし、専門的知識を有する医師の指導を受ける飲泉については例外とすること。
- ウ 飲泉は決められた場所で、源泉を直接引いた新鮮な温泉を飲用すること。
- エ 温泉飲用の1回の量は一般に100～150mL程度とし、その1日の総量はおよそ200～500mLまでとすること。
- (注) 1. 温泉にひ素、銅、ふっ素、鉛及び水銀並びに遊離炭酸が含まれる場合は、この記載に加えて、別に定める方法により飲用量を示すこととする。
2. 温泉がpH3未満である場合、(希釈が行われ、飲用に供する温泉がpH3以上になっている場合を除く。)は、この記載に代えて、例えば、「この温泉の液性は酸性であるため、真水でpH3以上となるようおよそA倍に薄めた上で、飲用の1回の量は100mLまでとし、その1日の総量はおよそ200～500mLまでとすること。」とする。なお、Aの数値は、pHにより異なるため、pH3以上となるように具体的希釈倍率を算出して記載すること。
- オ 飲泉には、自身専用又は使い捨てののコップなど衛生的なものを用いること。
- カ 飲泉は一般に食事の30分程度前に行うことが望ましいこと。
- キ 飲泉場から飲用目的で温泉水を持ち帰らないこと。
- ク 飲用する際には、誤嚥に注意すること。(注) 誤嚥とは、うがいや焦って飲むことなどにより、肺や気管に水分を吸いこんでしまうことをいう。なお、嚥下障害を発症している人は飲泉を行わないこと。

2020年4月6日

福岡市博多区金の隈2丁目2番31号

株式会社 太平環境科学センター (福岡県登録第5号)

代表取締役 坂本雅俊